

ちょっと考えてみませんかシリーズ
No.34

左の作文を読んで皆さんはどのように感じられたでしょうか？

亀岡市人権擁護委員 大井さん、亀岡市教育委員会 川勝教育長、亀岡市 佐々木副市長に感想を聞いてみました。

亀岡市人権擁護委員
大井 龍樹さん

この作文は全国73万編を超える応募の中から、内閣総理大臣賞に選ばれました。

5名の亀岡市人権擁護委員も選考に関わり、園部人権擁護委員協議会管内の中学校から京都府大会に選出された10編のうちの一つで、さらに中央大会へ進出し、栄えある受賞となりました。

後悔や当時の思いを正直に綴り、心の変化が丁寧に描かれていて、感銘を受けました。自らの過ちに向き合う姿勢に、寺竹さんの誠実さと勇気を感じます。

思春期は周囲の目や同調圧力に敏感になる時期で、同様のことは誰もが経験する可能性があります。

今の中学生にはSNSもあり、発言に悩む場面も多いでしょう。

寺竹さんが気づいた「直接本人に言えるかどうか」という視点はとても大切だと感じました。

亀岡市教育長
川勝 哲也さん

「人を傷つけた時の記憶がときどき顔を出して私の心をざわざわさせる」というこの最初の一言と、最後のまとめ部分にある「傷つけた友人と何のわだかまりもなく会話ができるようになるまでの時間は、私自身の弱い部分や課題と向き合う時間だと思っている」という一言に、私は強く心を打たれました。

同時に、寺竹さんが自らの言動を猛省し、これからは正しい人権意識をもって歩んでいくと深く決意されていると感じました。

更には、自らの「気付き」からこのような心境にたどり着いた寺竹さんと一度話をしてみたいという気持ちにまでさせられました。

人権を大切にすることはどういうことでしょうか？

人権侵害に対して「気付き」ことはたいへん大切なことですが、寺竹さんのように「気付き」だけに止まらず、解決に向けて正しい態度を示し、正しい行動を起こして初めて、人権尊重の理念が理解できたと言えると思います。

寺竹さんに心から拍手を送ります。ありがとうございました。

亀岡市副市長
佐々木 京子さん

自らの行為によって「人を傷つけてしまった」という自省の念を抱くとともに、それがなぜなのかを深く掘り下げ、自分なりの答えにたどり着いた、そのプロセスを書き出しているところに大きな感銘を受けました。

さらにハッとさせられたのは、「ゆがんだ仲間意識」や「本人のいないところでの中傷」は、「いじめ」であると断じていること、そして自分たちを縛る「空気を読む」という点に言及していることです。

私たちは普段子どもたちに「相手の立場に立って考えましょう」と伝えますが、寺竹さんの言う「想像力」を持つことの大切さも同時に伝えなければならないという、私たち大人への強いメッセージでもあります。

改めてしっかり考えていきたいと思います。

日々の暮らしの中で私たちはどれだけ人の声に耳を傾けているでしょうか。何気ない一言や態度が、誰かを傷つけてはいないでしょうか。また、困っている人に気づいたとき、自分に何ができるかを考えたことはあるでしょうか。

この作文は、身近な出来事を通して「相手の立場に立って考える事」、「その場の空気に流されていない？」など、日常に潜むいろいろな人権の大切なポイントを教えてくれる作文です。

自分自身の行動を振り返り、「これからどうありたいか」を見つめ直す機会にしてみませんか。